



葎

大阪発達総合療育センター機関紙
第25号

社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center



保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

特集:各事業所、卒園式・卒業式

■ 入職によせて

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長

梶浦 一郎



世の中が如何ように変わろうと、春になれば毎年花は爛漫と咲き誇り私たちを楽しませ、自然の営みは人智をはるかに超えていることを感じさせてくれます。とはいえ人間の動き、特に国際関係が絡んでくるとその政治問題は 極めて複雑で予想外になることもあります。

私達の医療、福祉の領域もその影響を受けますが、その新なる心は変わりません。世界に誇れる日本の伝統を引き継ぎ、発展させていきましょう。若い皆様の意欲に期待します。



■ 特集に寄せて

南大阪小児リハビリテーション病院 院長

川端 秀彦



厳しかった冬もようやく過ぎ去り、暖かい日差しを浴びて生きとし生けるものが輝いて見える季節がやってきました。春は出会いの季節でもあり、別れの季節でもあります。本号では各事業所での卒園式・卒業式の様子を特集しています。新たな一步を踏み出す子ども達を晴れやかに送り出す様子が見て取れると思います。また一方で、今年も職場に新しい仲間を迎えることとなります。新しく入職される人たちの希望に満ちた抱負が語られるのを読めば、新人ではないわれわれも心を新たにしてセンターの理念を実現すべく頑張らねばと思うでしょう。その他の特集では辻次長の「大阪府医療功労賞」の受賞の喜びや、船戸副センター長が主催された「近畿周産期精神保健研究会」が成功裏に終わった様子がかかれてあります。ぜひ、一読下さい。



新入職員研修報告



今年の新入職員研修は例年の3日間に加え、ビジネスマナー、社会人としての心構え、チームビルディング等の要素を取り入れた研修を2日間実施しました。またこの2日間には新入職員と各事業部から推薦された職員が一緒になって受講しました。

受講後のアンケートでは、「社会人として働く覚悟が出来ました」、「今までしっかりとビジネスマナーを学んだことがなく、とても参考になった」、「電話応対を今までは避けていたが、これからは積極的に電話に出ようと思う」、「チームでひとつの事を成し遂げる事の難しさが分かった」、「一つの目標・目的を共有して初めて協働作業が出来る」、「コミュニケーションの重要さが認識出来た」等、新入職員・現職員ともに得るものがあったようです。また新入職員にとっては先輩職員と一緒に取り組む事で、法人の事を知る機会になりましたし、現職員にとっては、他部署の職員と交流することで、理解を深める事が出来たようです。

運営局では今後も教育研修部と協力して職員研修を企画していきます。みなさんの積極的な参加を期待しています。

卒園式・卒業式

あさしお園

平成28年度の卒園児5名、退園児9名を、8名の来賓の皆様、在園児とその保護者、職員でお祝いました。

あさしお園に通った月日を、思い出のアルバムの歌にのせて写真で振りかえると、たくましくなった子どもたちの姿、画面いっぱいに広がるととても楽しそうな笑顔が印象的でした。



ゆうなぎ園

3月22日、春らしい陽の光のなか、ゆうなぎ園の卒園式・修了式が行われました。

今年度は16名の卒園児が地域の小学校や支援学校へ巣立っていきました。式では、園児による歌や職員からの手話歌などで門出をお祝いました。



わかば



フェニックス

花のつばみもほころぶ春。

中学部の卒業式。学ラン姿の二人。その横で微笑む家族。まるで我が子の事のように感動し、笑ったり泣いたり、はしゃぐスタッフの姿。思い出は走馬灯の様に。調子が悪くなると点滴。砂利道をゴトゴト住吉大社。甘えん坊で添い寝の日々。電車で閑空遠足。二人とも年々力をつけ、いつのまにかリーダーシップを発揮。多くの人との関わりに感謝すると共に、これからの成長が楽しみです。ご卒業おめでとう！



ふたば



3月19日、卒園児3名、退園児5名の新たな旅立ちをみんなでお祝いました。子どもたちの大きな成長を感じ、楽しかった日々を思い出し一同、涙が溢れました。ふたばでの先生や友達との出会い、そして沢山の経験を宝箱に詰めて大きく羽ばたいていって欲しいと願っています。卒園・退園おめでとうございます！

わかば病棟より東住吉支援学校に通われている小学部男子1名と中学部男子1名の計2名が、3月10日にご卒業されました。春夏秋冬、毎日卒業された男の子2名ともう1名の女の子と仲良く元気に通われました。当日はかっこよく正装しご家族と一緒に出席されました。とても感動的な卒業式で、ご家族、病棟スタッフとも涙があふれました。ご卒業おめでとうございます。



病棟配属

歯科衛生士の紹介

歯科衛生科 岡田 莉歩



昨年の4月から、フェニックス3階・4階に1人ずつ病棟歯科衛生士が配属になり約1年になります。業務としては主に、入所者様全員の専門的口腔ケアや摂食機能訓練などを行っています。

私たちが病棟に配属になるまで口腔ケアは、看護師さんや介護福祉士さんが行って来ていました。しかし他の業務もあり忙しく、口腔ケアの必要性を感じてはいてもなかなか時間をかけられないでいたと思います。歯科衛生士が病棟配属になり、口腔ケアを中心に、専門的立場から口腔内を見ることが可能になりました。

そして、口腔内の異常や口腔内装置のトラブルなどを、早期発見しすぐに対応することにも繋がっています。

摂食機能訓練では、主に頬や口唇・舌・頬粘膜などのマッ

サージなどを行い口腔機能の維持・回復・窒息・誤嚥防止に努めています。

また、特に唾液誤嚥のある方では、誤嚥性肺炎予防の為に口腔ケアが重要です。

障がい児者の口腔ケアは、特徴的な口腔内に見えにくい姿勢で行いとても難しいと思います。一人一人の口腔内をよく観察し、その利用者様に合った姿勢、清掃用具を選び、お互いに無理のないよう口腔ケアを行うのが大切だと思います。

口腔ケアは日常に行われるケアのひとつであり、その効果は、入所者様の生活に大きく影響します。多職種との連携をとりながら、利用者様のQOLの向上を目指しこれからも頑張ります。



第2回近畿周産期精神保健研究会を終えて

副センター長

船戸 正久



1日目ワールドカフェ

平成29年25・26日（土・日）と新大阪丸ビル別館にて、第2回近畿周産期精神保健研究会を開催し、盛会の中無事終わることができました。参加者は前日のワールドカフェが57名、研究会が228名と、多職種専門家（医師46名、看護師・助産師・保健師110名、臨床心理士・MSW33名、リハ8名、その他31名）が集まり、熱心に討議を行いました。

今回のテーマは「多職種協働で支援する患者・家族中心のケア」で、大切な4つのキーワードは、「尊厳・尊重」、「情報共有」、「参加」、「協働」です。テーマに沿って私が会長講演を行い、その後特別講演として米国Duke大学小児科准教授Margarita Bidegain氏が、新しい概念である「周産期緩和ケア：多職種協働支援」について米国の現状を紹介してくれました。シンポジウム1では「多職種協働で胎児のい

のちをどのように大切に支援するか」、シンポジウム2では「多職種協働で支援するNICUからの地域生活移行」とし、多職種協働支援についてご家族も含め非常に感銘深い発表をしていただきました。梶浦理事長、鈴木センター長始め、多くのセンター職員も準備委員・スタッフとしてご支援いただきました。心から感謝申し上げます。



2日目講演



2日目シンポジウム

第45回大阪府 医療功労賞受賞

リハビリテーション部 次長

辻 薫



この医療功労賞は、読売新聞社が主催、厚生労働省、日本テレビが後援し、全国都道府県の地域医療貢献者を顕彰する目的で設立されています。授賞式では、「地域住民の方々が身近な地域で安全で質の高い医療・介護・福祉サービスを求める声は、これまで以上に期待が増し

ています。医療功労賞が、すべての人が適切な医療を受けることができ、地域住民が健康で安心して暮らせるよう尽力している医療従事者の励みになることを願っています。」と、読売新聞大阪本社 事業本部長 橋本様、大阪府健康医療部長 上家様よりご祝辞を頂戴しました。まさに、大阪発達総合療育センターの理念である「障がいのある人々が地域において安心して生活できるよう支援する」という実践継続と重なり、改めてこのセンターで勤続できたことに誇りを感じています。これまでご支援くださった利用者の皆様、ご指導いただきました理事長はじめ職員の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

職員研修実施状況 H28年10月～H28年12月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
平成29年1月27日(金) 18:00～19:00	リハ部・看護部	リハ部・看護部合同勉強会 「シーティングの基礎について 座位保持製品コンセプト紹介」	義肢装具部 松居篤史、小林俊之 リハビリテーション部 曲洋子副主任(PT)	65名	PT室
平成29年2月14日(火) 17:40～18:40	医療安全管理会議	医療安全管理研修 「酸素の安全な取り扱い方について」	株式会社パバ 医療ガス情報担当者 岡崎久幸氏	72名	5階ホール
平成29年2月24日(金) 18:00～19:00	リハ部・看護部	リハ部・看護部合同勉強会 「利用者さんの体調や活動に配慮した姿勢設定 腹臥位・背臥位でのリラックス」	なでしこ 菅直樹 西尾勇介 リハビリテーション部 桑玲子科長(PT)	30名	PT室
平成29年3月6日(月) ～10日(金)	教育研修部	関西医科大学医学部学生地域医療実習	船戸副センター長、 飯島小児科医長他	関西医科大学 医学部学生4名	病棟他
平成29年3月8日(水) 17:40～18:40	教育研修部	「ストレスチェック制度の概要と 集団分析の応用の可能性」	運営局 山野洋一	80名	5階ホール
平成29年3月13日(月) 17:40～19:00	教育研修部	「発達障がいの早期気づきと支援」	大阪大学大学院 連合小児発達学研究科 教授 片山泰一氏	93名	5階ホール

イベントトピックス



あさしお園入園・進級式

4月3日あさしお園、入園・進級式を挙行了しました。19名のお子様とご家族をお迎えし、新年度のスタートをきることができました。みんなの笑顔いっぱい、楽しい一年にしたいと思います。



ゆうなぎ園 入園式

4月3日の午後、入園式を行いました。13名の新しいお友達をむかえ、新しい春のスタートです。



ふたば入園・進級式

今年は54名の子どもたちと新しい1年のスタートを切りました。新入園児の方々の緊張感も、在園児の温かい拍手で解れたようでした。最後は全員で、元気いっぱいアヒルのダンスの体操をしました。

感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

一般寄付金

月	寄付者(敬称略)	
1月分	ダイセル労働組合本社支部 1月分楽基金 2件	本園
2月分	2月分楽基金 4件	
3月分	株式会社 井上 明生 一般社団法人大阪福祉防犯協会 3月分楽基金 10件 ホワイティうめだ商店会	
1月分	父母会	あさしお園・ゆうなぎ園

寄付物品

月	寄付者(敬称略)	物品名
1月分	匿名2件	おもむつ
	匿名	おもむつ他
2月分	清水 弘法	ハガキ 多数
	賈迫 蒼佑	バギー
3月分	匿名	色めりペンセット
	匿名	おもちゃ
	匿名	学習本
	保田 博 匿名	スーツ上下 紙パット 多数



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・梶浦一郎

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児
〒552-0004 港区夕風2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524